

6-13

主題 「介護職員の技術向上のための取組

介護職員の技術向上

副題 利用者の理解・利用者本位の視点に立つことができるチェックシートの作成

研究期間 4ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム 原町ホーム

発表者：介護職 河野 雄太

アドバイザー：居宅ケアマネ 福井 幾子

共同研究者：介護職 高本 由美子 介護課長 高橋 健治

電 話 03-3359-5651

メール E-mail : haramati-k@douen.jp

FAX 03-3359-5520

URL URL : <http://www.doen.jp/index.html>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会が母体である 50 床の特別養護老人ホームです。
施設のコンセプトは、“やさしさを起点としたパーソンセンタードケアによる安心と信頼のホーム”であり、一人ひとりの心に寄り添う介護を目指しています。

《研究前の状況と課題》

当ホームは職員の教育についてはエルダー制を採用しており、「排泄」「食事」「着脱」「移乗」のそれぞれの介護技術については、リーダーが「OJT 記録表」（技術評価表）を使用して適宜チェックしている。

今回、利用者へのよりよい介護サービスの提供のために、介護職員の技術を評価する用紙を作成することとした。それにあたっては、当ホームの介護現場の現状を見直すことから始めた。

《研究の目標と期待する成果》

研究の目標と期待する成果は、下記のとおりとした。

- ① 介護職員の技術を評価するための「OJT 評価表」を作成する
- ② 定期的に職員の介護技術を評価する機会を設ける
- ③ 介護技術を評価することで、介護力の向上を図る

また、下記の項目を実施し、評価表の作成に役立てることにした。

- 事業所内で課題となっていることを検討する
- それぞれの介護技術の本質的な意味を学習し、介護についての理解を深める
- 介護職員自らが自己評価を行い、同時にリーダーが職員の理解度や達成状況を確認する仕組みを設ける

《具体的な取り組みの内容》

今回の取り組みは ①介護現場における課題の検討 ②移乗・移動技術の学習 ③「OJT 評価表」の作成 ④作成した「OJT 評価表」を使用した介護職員の技術評価 の手順で進めた。

①介護現場における課題

課題検討の結果、「移乗・移動技術に関して職員が不安をもっている」「入浴介助の際、腰への負担が大きい」「新人職員への介護技術の教育内容が検討されていない」等が明らかになり、今回の取組では移乗技術に特化して評価表を作成することとした。

②移乗・移動技術に関する学習会で学んだこと

外部講師による講義を受講し、①スウェーデンにおける移乗・移動の考え方（利用者の残存機能を使う、利用者を主体にするなど）②持ち上げない介護（重力に逆らった介助をしない、人の自然な動きを活用するなど）③福祉用具を活用した介護技術（利用者の残存機能を活かし、介護者の負担を軽減する方法など）を学んだ。また、福祉用具についての研修時には、「利用者体験」の学習も行った。

③「OJT 評価表」の作成

②で学んだことを参考にしながら、移乗の「OJT 評価表」を再作成した。

④「OJT 評価表」を用いた職員の評価の実施

作成した「OJT 評価表」を用いて、職員の介護技術を評価した。

《取り組みの結果と評価》

「OJT 評価表」を用いて職員を「新人」「中堅」「ベテラン」に分けて評価を行ったが、その結果新たな課題として明確になったことは、評価表の下記の項目に対する知識が不十分であったり、一人の利用者に対する職員間での認識の違いが見られたことであった。

○利用者の疾病や障害の部位・程度

○利用者が自分でできること

○利用者の理解力・意欲の程度

これは利用者の情報収集とアセスメントが十分に行われていないことを意味しており、今後の検討課題となった。また、学習した「持ち上げない介護」については、介護サービス提供時、特に入浴介助時に活用していくよう、検討している。

《まとめ》

今回の「OJT 評価表」を作成する研究の過程では、新人介護職員の教育システムの構築や、利用者の個別情報収集・アセスメント力を強化することの必要性が明らかになった。今後は、新人介護職員の教育のための会議を立ち上げて、よりよい介護サービスを提供するための検討を行っていくこととしている。

《提案と発信》

本取り組みでは当事業所の介護職員自らが介護現場の実態を検討し、改善策を策定していった。介護現場は常に煩雑な業務に追われており、問題を振り返る機会もままならない現状があったが、今回の取り組みを機に検討委員会を組織し、討議を重ねていったことは大きな意義があった。今後は、当施設に合った継続可能な改善策を策定していくことが重要と考えている。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。